

令和5年度

事業報告書



社会福祉法人

湯沢町社会福祉協議会

届けよう 小さな愛 つなげよう 笑顔の輪

令和5年度の事業及び決算の報告について

町民の皆さまには、日頃より湯沢町社会福祉協議会の活動に対してご理解とご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。改めて感謝と御礼を申し上げます。毎年5月には前年度の事業の実施状況及び決算の状況を理事会と評議員会に説明し、承認を得た上で皆さまにご報告させていただいております。

さて、近年ますます進む少子高齢化の影響で、地域における福祉課題も以前より具体化してきているように見受けられます。皆さますでに報道等でご承知のとおり、国でも社会保険料への上乗せという形で少子化対策への財源を確保し、少子化への歯止めをかけていく姿勢を明確にしています。少子化は家族形態の変化にもつながり、今後の居宅介護や施設介護へのニーズ(要望)とその受け皿となる介護職員や関係施設の配置など、さまざまな面から福祉と介護の問題が重要視されて来ると考えられ、私たちはこの問題にも目を向けていく必要があります。

湯沢町社会福祉協議会においては限られた人員と限られた予算ではありますが、町民皆さまの笑顔と明るい町づくりのため、役職員一同共通の理念を持って業務の運営に当たっていることをご報告させていただきます。

湯沢町社会福祉協議会の理念

「みんなでつくろう あったかい町 ゆざわ」

- ・ 地域社会に対して社協は何をなすべきか、自分の責務は何かを常に考える。
- ・ 組織内の融和を図るとともに、少数職員のため皆が(事務職、介護専門職)協力して業務を遂行する。
- ・ 湯沢町社協には50年の歴史があることを認識し、更なる発展のため一步一步を町民とともに歩む。

令和6年度も引き続きご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和6年5月

社会福祉法人 湯沢町社会福祉協議会
会 長 高 橋 政 弘

事業報告

1. 理事会・評議員会等

	開催数	日にち
理事会	4回	5月25日, 6月22日, 12月21日, 3月21日
評議員会	2回	6月22日, 3月28日
評議員選任・解任委員会	1回	6月16日
会計監査	1回	5月18日 上記の他、税理士法人による外部監査を12回実施

※ その他必要に応じて会長・副会長・事務局長会議を開催

2. 役職員体制

- (1) 理事 7名 R5.6.22改選(任期2年)
 (2) 監事 2名 R5.6.22改選(任期2年)
 (3) 評議員 8名 R3.6.10改選(任期4年)・・・R5.6.22 1人辞任
 (4) 職員

R6.3.31現在 ()内はR5.3.31

	事務局	訪問介護	通所介護	居宅介護支援	児童クラブ	計
正職員	5(6)	5(4)	10(10)	1(1)	3(2)	24(23)
準職員	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)
登録職員	2(1)	2(2)	13(13)	0(1)	7(7)	24(24)
嘱託職員				2(2)	0(1)	2(3)
計	7(7)	7(6)	24(24)	3(4)	10(10)	51(51)

※ 兼務職員は本来業務の所属に掲載

※ 職員体制の充実化に向け、年度中に採用試験を2回実施し1人採用(訪問)

※ 年度末退職者2人(通所) … 令和6年4月1日付で正職員2人採用

※ 通所介護事業所においては、登録職員として送迎車両運転員(5人)を雇用し、介護職員が業務に専念できるようにしています。看護職について、正職員1人体制が続いており、人的体制強化が必要。現在、登録看護職員5人を雇用する中で対応している。

※ 児童クラブは、施設整備に合わせて非常勤嘱託員を管理者として配置していましたが、5年度からは正職員より管理者を任命し、正職員1名採用しました。

3. 主な行事・大会

期 日	内 容	会 場	参加者
4月24日	保護司会総会	ふれ愛支援センター	事務局
26日	町老人クラブ連合会役員会	湯沢町公民館	事務局
5月18日	会計決算監査	総合福祉センター	監事・事務局
25日	第1回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
25日	第1回共募運営委員会	総合福祉センター	運営委員・事務局
6月16日	評議員選任・解任委員会	総合福祉センター	委員・事務局
16日	第1回共同募金助成審査委員会	総合福祉センター	助成審査委員・事務局
22日	第1回評議員会	総合福祉センター	評議員・会長・監事・事務局
22日	第2回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
30日	高齢者スポーツ大会	カルチャーセンター	会長・事務局
7月4日	社会を明るくする運動	町内全域	湯沢地区保護司・事務局
5日	第1回地域福祉活動計画推進委員会	総合福祉センター	会長・事務局
19日	県社協事務局長会議	総合福祉センター	局長：遠隔会議（リモート）
8月4日	県共同募金事務局長会議	総合福祉センター	局長：遠隔会議（リモート）
9月28日	保護司看板設置	湯沢町公民館	会長・事務局
10月13日	湯沢町高齢者福祉大会	湯沢町公民館	会長・事務局
17日	南魚沼地区社会福祉大会	ふれ愛支援センター	会長・副会長・事務局
19日	新潟県民福祉大会	上越文化会館	会長・事務局
22日	ふれあい福祉健康フェスティバル	カルチャーセンター	会長・事務局
23日	保護司会保護司候補者検討会	南魚沼市福祉センター	事務局
26日	訪問介護 県実地指導	総合福祉センター	事務局
11月13日	社協設立50周年「祝う会」	総合福祉センター	会長・副会長・評議員他
24日	第2回地域福祉活動計画推進委員会	総合福祉センター	会長・事務局
12月21日	第3回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
22日	財政援助団体監査（湯沢町）	総合福祉センター	会長・事務局
2月20日	第2回共募助成審査会	総合福祉センター	助成審査委員・事務局
3月21日	第4回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
21日	第2回共募運営委員会	総合福祉センター	運営委員・事務局
27日	県社協評議員会議	総合福祉センター	会長：遠隔会議（リモート）
27日	保護司会関係者会議	ふれ愛支援センター	事務局
28日	第2回評議員会	総合福祉センター	評議員・会長・監事・事務局
28日	県共同募金第1回臨時評議員会	総合福祉センター	局長：遠隔会議（リモート）

4. 法人運営

(1) 信頼される法人運営

社協は民間の社会福祉法人であり、その業務は町民や福祉関係者に支えられた「公共性」と、デイサービスやヘルパー等の介護サービス経営を行う「事業性」の二面を有しています。特に近年は介護保険事業において、介護報酬単価が上がらないことや介護人材不足に起因した減収により事業の採算が取れない状況に苦慮しておりますが、本年度も会員である町民の皆さんが「安全・安心に暮らせる町」を目指し、町内会や民生委員児童委員協議会、町健康福祉部をはじめとした団体及び各種関係機関との連携を図り、町民から信頼される法人運営と事業展開に努めました。

(2) 社協会費

社協の運営と活動は皆さまからの会費（700円）と町からの補助金、そして共同募金の配分金や県社協の補助金、さらに介護保険事業収入などで賄われております。

毎年、町内会の皆さまには会費の取りまとめをお願いし、納入いただいていることにお礼申し上げます、併せて地域福祉事業の向上のため引き続きご理解とご協力を賜るようお願いいたしました。また、事業所等の皆さまにも特別会員としてご加入いただくよう勧めてまいりました。

社協会費収入の推移				単位：千円
R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
1,407	1,403	1,410	1,406	1,400
会費の主な用途は、次のとおりです。 ○援護費（長期入院入所者援助、母子父子世帯援助） ○地域福祉費（老人福祉、障害者福祉、ボランティア活動、サロン） ○助成金（ボランティア団体）				

(3) 財務の適正運営

財務運営については社会福祉法人会計基準及び湯沢町社会福祉協議会経理規程に則り適正に執行しています。監査については、2名の監事による内部監査を年1回実施するとともに、社会福祉法人の運営と経理に精通した税理士法人に毎月の外部監査を委託し、より高度な監査体制で適切な会計運営を行いました。

（令和5年12月22日 湯沢町の財政援助団体監査）

(4) 第2期湯沢町地域福祉活動計画の推進と進捗管理

第2期地域福祉活動計画に基づき、令和4年度社会福祉協議会事業について事業推進委員会において検証・評価をしました。今年度は開催時期の見直しを行い、早めに開催しました。（事業推進委員会 7月5日、11月24日開催）

(5) 通所介護サービス利用者送迎事業（継続）

当会の送迎車両を活用し、シルバー人材センター運転員・付添員による三国地区等のデイサービス利用希望者の送迎を実施しました。水木金曜日に稼働し、延べ16名の利用者を3か所のデイサービスに送迎しています。

(6) 三国地区訪問介護サービス地域間格差是正事業（新規）

三国地区の訪問介護サービスにおいて、遠距離による格差を是正するため、令和5年7月から三国地区訪問介護サービスの効率化のため、利用日を固定化しての事業を始めました。本事業は、町から事業支援を受け実施しています。

（ 利用日：毎週土曜日の1日と隔週木曜日の午後のみ ）

5. 地域福祉事業

基本目標Ⅰ 『これからの地域を支える「人」を増やそう』

実施プラン1：参加・活動できる場面をつくろう

(1) 個々のボランティア活動、湯沢町ボランティア連絡協議会の活動を支援します。

5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行され、ボランティア活動も例年同様に活動できるようになりました。10月22日（日）に湯沢町ふれあい福祉健康フェスティバル開催も通常開催され約550人の来場がありました。

(2) 新たな人材発掘、育成の為の講座等の企画、活動のPRをしました。

① 5月26日研修会「地域福祉は福祉教育ではじまり福祉教育で終わる」を開催
（ 湯沢町ボランティア連絡協議会共催 ）

② 広報「社協ゆざわ」やホームページを活用し、活動希望者の募集を行いました。

(3) 既存の取り組みや活動を把握し、コーディネート機能を充実しました。

個人・団体加入しているボランティアや活動を把握し、必要時に相談や調整・紹介を行いました。

実施プラン2：みんなで意識を高めよう

若い世代の方も参加できるような地域活動参加のための研修会や交流会を開催します。… 研修会や交流会を開催しませんでした。

実施プラン3：全世代でふくし教育を進めよう

(1) ボランティア体験、福祉体験の開催

湯沢学園や児童クラブと連携し、夏休みボランティア体験を実施することで福祉教育の推進を図りました。本年は小学1年～9年生までと参加申し込み対象を広げ、また新規内容も加え実施しました。

○夏休み中のボランティア体験（活動別延人数）

ボランティア内容	児童クラブ	一般生徒	計	昨年	増減
配食サービス	0	24	24	15	9
いきいきサロン	4	11	15	4	11
音声訳体験	0	5	5	0	5
点字で名刺を作ろう	0	1	1	4	-3
手話で歌ってみよう	0	1	1	2	-1
車椅子体験	0	2	2	4	-2
アクション農園	6	0	6	10	-4
ボッチャ体験	0	19	19	5	14
24時間テレビ街頭募金	0	21	21	11	10
☎ ケーキ作り教室	0	15	15		15
☎ 避難所づくり	0	10	10		10
合計	10	109	119	55	64

○認知症サポーター養成講座 … 湯沢町民生児童委員対象の講座に協力
（令和5年12月19日開催 民生委員児童委員18名）

○防災教育 … アルファ米非常食を使った災害時訓練
（令和5年8月10日開催 湯沢児童クラブ35名、赤十字奉仕団7名参加）

(2) 学校地域での事業の企画支援

湯沢学園7年生を対象に車いすラグビー日本代表選手による講演会、体験会開催を支援しました。… 参加中学生46名

(3) 湯沢学園や湯沢児童クラブと連携した多世代参加事業の実施

例年開催していたしめ縄づくり教室は講師都合により中止としました。

(4) 福祉教育推進地区支援事業

支援事業利用地区はありませんでした。

(5) 車いすラグビー交流大会開催支援

日本車いすラグビー連盟主催の交流大会の開催を支援しました。

（令和5年9月2～3日
湯沢カルチャーセンター）



基本目標Ⅱ 『みんながつながる場をつくろう』

実施プラン1：みんなが集まれる場づくり

世代の異なる人や障害の有無等にとらわれない交流の場として、男の料理教室、ポッチャの会、針と糸の会の開催・運営支援を行ないました。

実施プラン2：気軽に集まれる場を増やそう

生きがいの場となっている各種サロン活動の充実を図りました。 (): R4

項目	ふれあいサロン	いきいきサロン	やまぶきの集い
開催回数	48 (48)	45 (44)	12 (11)
延参加者数	190 (218)	530 (516)	97 (103)
延ボランティア数	121 (118)	341 (322)	78 (68)
1回当たり参加者数	5 (5)	12 (12)	9 (9)

実施プラン3：想い・悩みを話せる場づくり

当事者組織の活性化や出会いの場づくりとして、町内の関係団体への活動支援を行いました。また、各団体と連携することで、生じている課題等の検討を行いました。

- ・ 民生児童委員協議会
- ・ 知的障害者団体
- ・ 身体障害者団体
- ・ ボランティア連絡協議会
- ・ 保護司会
- ・ 老人クラブ連合会
- ・ その他

基本目標Ⅲ 『みんなで支え合える仕組みづくり』

実施プラン1：困りごとをみんなで支え合おう

(1) 湯沢町より生活支援体制整備事業を受託し、生活支援コーディネーター業務と協議体運営業務を実施しました。地域の助け合い体制づくりとして住民参加型在宅福祉サービス湯沢つながり隊や湯沢雪堀隊の運営を行ないました。

① 湯沢つながり隊の利用実績					
延べ利用件数	224 件		活動会員実人数	7 名	
利用実人数	9 名		活動支援費	1 時間：400 円	
活動内容	買い物	ゴミ出し	通院手続介助	話し相手	その他
	4 件	172 件	8 件	24 件	16 件

② 湯沢雪堀隊の利用実績			
延べ利用件数	4 件	活動会員実人数	2 名
利用実人数	1 名	活動支援費	1 時間：1,000 円
活動内容	家周り除雪、玄関先帰路除雪		

(2) 関係機関や事業利用者からの相談を受け、電話対応だけでなく訪問を行なうことで状況把握に努めました。また、評価も含めて支援を継続しました。関係者が出席する会議等に参加し、ニーズ把握に努めました。

実施プラン2：孤立しない地域にしよう

配食サービスや安心安全見守りネット、湯沢つながり隊やその他事業、関係専門職と連携を図り、情報共有することで住み慣れた地域で安心して暮せるよう見守り体制を整えました。また、当協議会ではさまざまな事業や受託事業を行うなかで、訪問・見守り体制の確立や多様な機関との連携を図りました。

①安心安全見守りネット事業

高齢者世帯や障害をお持ちの世帯で見守りが必要な方へ、週1回程度支援員が訪問し安否確認を行いました。（訪問対象世帯8世帯 延270回訪問）

②支えを必要とする人たちへの支援状況は、次のとおりです。 単位：人・千円

事業名	利用者数	決算	備考
長期入院入所者援助	13	390	共同募金、会費
歳末助け合い慰問	72	569	共同募金
行路人旅費支給	6	4	町補助金
母子父子世帯入学卒業祝い金支給	0	0	会費、町補助金
配食サービス	68	3,606	受託事業
高齢者世帯等住宅除雪援助	25	247	受託事業
家族介護用品支給	41	1,552	受託事業
保育支援	-	3,002	受託事業
ひきこもり支援	0	0	受託事業

基本目標Ⅳ 『みんながつながるために「しらせ」を広げよう』

実施プラン1：みんなにしらせを届けよう

広報紙「社協ゆざわ」を年4回発行しました。今年度は50周年ロゴマークを作成し、さまざまな場面で活用しPRしました。また50年を振り返る特集を毎回掲載することで、活動を知ってもらう機会としました。写真を多く活用し、見やすく目に留まるよう工夫し、紙面だけでなくホームページ等も活用しました。



実施プラン2：みんなの思いを受け止めよう

総合福祉センターの窓口機能として、来所や電話での相談があった時は一旦受け止めた上で判断し、必要な支援者・機関へ紹介しました。また、個別ケースにおいては自宅へ訪問し、他機関と協働しながら相談や支援を行ないました。

(1) 資金等貸付け事業の実施 … 資金等貸付事業の実施状況は、次のとおりです。

①生活福祉資金貸付状況（県社協事業主体）

制度の種類	貸付件数	備考
コロナ特例貸付	137 件	貸付件数は令和 2 年～4 年度分 ・返済や免除による終了件数 80 件 (残り 57 件)
生活福祉資金貸付	13 件	貸付件数は前年度からの継続貸付件数 ・令和 5 年度 新規貸付件数 0 件 償還完了件数 5 件

令和 2 年から令和 4 年 9 月末までコロナ感染拡大の影響を受けて休業や失業などによる収入の減があった方への貸し付けを行いました。今後も返済について長期にわたり対応していくこととなります。県社協事業であるため、当法人の予算には反映されず、県から交付される事務費のみ法人収入で計上しています。

②小口資金（湯沢町社協事業主体）・・3 万円未満の小口資金貸付制度

新規貸付 2 件 前年度からの継続貸付件数 1 件
資金残高 R6. 3 月末 1,194,691 円

(2) 受託事業

①日常生活自立支援事業（1,388 千円）

認知症高齢者や知的障がい者・精神障がい者等で、日常生活を営む上で支障や不安のある方に対し、金銭や書類の管理、福祉サービス利用の支援を行いました。

利用者数	19 名	延べ相談件数	445 件
生活支援員数	11 名	延べ支援回数	154 回

②成年後見制度法人後見支援事業（162 千円）

今年度内に新規 1 名受任、死亡により 2 名が終了しています。年度を通して高齢者 4 名の後見支援を行いました。また、終了しているが相続人不在で引継ぎができず、戸籍調査を継続している方が 1 名います。後見活動延べ件数は、347 回となっています。その他、成年後見制度申立ての支援とその他相談等を適宜実施しています。

(延べ 7 件)

○ 終活とおひとりさまに備える研修会（実施回数 6 回）

No.	日にち	内 容	参加者数
1	5 月 25 日	簡易エンディングノートを書いてみよう	13 名
2	6 月 27 日	成年後見制度の基礎知識	6 名
3	8 月 24 日	シニア世代一人暮らしの情報交換会	6 名
4	9 月 12 日	遺言の基礎知識	17 名
5	2 月 19 日	生前整理のお話	25 名
6	3 月 22 日	お墓のお話	16 名

6. 指定管理業務

◎ 湯沢児童クラブの運営

湯沢児童クラブを指定管理業務として受託してから、8年が経過いたしました。運営にあたっては社会福祉協議会の特性を生かし、行事にはボランティア団体などの協力を得るなどして業務を行いました。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、手作りおやつや長期休み期間中の行事など、以前のように活動することが出来ました。更に、不登校支援をはじめ、要保護児童、保護者への支援等、様々なケースを子育て支援課と協力しながら対応することで、児童クラブの役割や重要性を再認識出来ました。

今後は定員数が大幅に増えるため、以前から懸案事項とされている指導員不足や、支援を要する児童や配慮が必要な児童等の受け入れによる指導員の確保に加え、多様化している利用者(区域外就学児童等)の受け入れについて、湯沢町と湯沢町教育委員会等と協議していく必要があります。



(1) 特に留意した取り組み

- ①送迎時に利用児童の様子を伝えるなど保護者とのコミュニケーションを積極的に行うことで、保護者の困り感にいち早く気付き、支援に繋げることが出来ました。
- ②指導員の情報共有のため、事務日誌の見直しをはじめ、相談・対応シートの活用や業務開始前の情報交換を積極的に行いました。更に長期休み前に指導員を集め、指導指針や避難経路の確認、児童の情報共有をすることで、指導の統一性を図りました。
- ③長期休み等多様なシフトに対応するため、指導員の生活状況を把握し、無理なく業務を行えるように努めました。
- ④要支援児童や自立支援事業、不登校支援等様々なケースに対応するよう、子育て支援連絡会や不登校支援ミーティング等に参加し、学校や保健師、児童相談所等との情報共有を行うことで、児童クラブの機能を生かした支援を行えました。
- ⑤新施設に慣れることを第一としたため、設備や環境を活かしきれませんでした。

(2) 利用件数と収入の推移

(単位 千円、人)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5
指定管理料	7,182	8,752	8,368	9,381	12,621
利用料収入	3,796	2,578	2,497	2,645	3,072
利用児童数(延)	6,466人	3,959人	4,169人	5,547人	6,029人
実績内訳	年間延べ利用児童数			6,029人	
	通年利用児童数(延)			5,775人	
	長期休暇時利用数(延)			251人	
	スポット(一時)利用			3人	



○実施した主な事業や行事

ボランティア体験 (希望者のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農園作業体験(認知症アクション農園) ・ いきいきサロン(高齢者と交流)
夏休み行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせ(虹の会) ・ 手話で遊ぼう!(講師:志田春美さん) ・ 防災学習… 煙体験・避難訓練・防災飯 (湯沢町消防署・湯沢町赤十字奉仕団等) ・ ミッションチャレンジ!(美味しんぼ倶楽部)
その他事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手作りおやつ… 週1・2回(長期休みを除く) ・ まるまる一む(不登校支援)

7. 介護保険・障害福祉事業

◎ 訪問介護事業所

訪問介護は中山間地における在宅介護の原点であり、湯沢町においては、遠隔地(三国方面)の利用者への訪問は、地形上経営的に非効率であること等もあり、当事業所だけが運営しています。

(1) 訪問件数と介護保険収入の推移

(単位 件、千円、%)

区分	R1	R2	R3	R4	R5
利用件数	6,441	6,182	6,016	5,957	4,825
収入	29,189	28,910	30,283	29,438	22,641
収入前年対比	116.1	99.1	104.7	97.2	76.9

- ・ 障害福祉サービス利用者減による件数及び収入の大幅な減
- ・ 県実地指導の過誤調整による返還金

(R5 年度分：294,080 円 R4 年度分：731,390 円 計 1,025,470 円)

(2) 目標達成への取り組み

○ 重点目標

①「安心して自宅で過ごせる」と感じることでできる生活の場づくりを目指します。

「コミュニケーション力の強化」「確実な記録の作成」「引継ぎ」を徹底し利用者ニーズを把握し、適切なケアができるように努めました。

②職員の資質向上に努めます。

自己評価を行い、個々の達成率や改善点を意識することで「サービスの質の向上」を図ることができました。また、内部・外部研修・地域ケア会議・個別検討会へ参加し、個々のスキルアップや資質向上に努めました。研修の内容は毎月のミーティングでさらに学びを深め、業務に対する知識・技能の向上に努めました。

研修内容	・ 訪問介護サービスにおける BCP	・ 感染予防リーダー研修
	・ 相談援助職の記録の書き方	・ 接触障害について
	・ 訪問介護職員の心得	・ 高齢者虐待防止研修
	・ 嘔吐物処理方法について	

③多様な勤務体系による人材の確保・育成・定着に努めます。

三国地区への訪問について、湯沢町と協議し毎週土曜日と隔週の木曜日午後を利用日として固定化し、7月末よりサービスを開始しました。現在土曜日3名、木曜日2名の方にご利用いただいています。

人的体制の状況	令和5年10月	正規職員 採用	1名
	令和5年11月末	登録職員 退職	▲ 1名
	令和6年2月	登録職員 採用	1名
	令和6年4月	正規職員 採用	1名
		正規職員 異動	▲ 1名
※現在、常勤職員5名、登録職員2名の体制となっています。			

◎ 通所介護事業所

多くの利用者の要望に添えていくため最大限の努力をするとともに、経営状況の改善におかれて、更なる稼働率アップを目指します。

(1) 利用件数と介護保険収入の推移

(単位 件、千円、%)

区分	R1	R2	R3	R4	R5
利用件数	7,037	6,999	7,726	7,439	7,670
収入	69,228	68,126	73,825	68,854	71,715
収入前年対比	90.2	98.4	108.3	93.3	104.2

※夏季冷房設備故障による営業短縮での損失見込額 約 200 万円

(2) 目標達成への取り組み

○ 重点目標

①安定した経営を目指します。

ご利用者、お一人お一人と向き合い支援や援助を行う事で、信頼関係を構築しながらサービス提供を行う事ができました。年度初めは利用者数も多く、一定の稼働率で軌道にのり運営が行えていました。追加利用の提案も行っていましたが、夏季は冷房設備故障に伴う営業時間の短縮、秋季は湯沢病院の医療院開設に伴い入所される方、冬季は体調不良等でご利用を休む方などで、ご利用者数が減り一年を通して安定した運営を行う事ができませんでした。

②計画的な研修の実施により、職員の資質向上を目指します。

定期的に研修を行う事で資質・知識の向上に励み、介護方法の見直し・職員間の意見交換を密に行いサービス提供に活かす事ができました。また、各自で立案した個人目標の取り組みを通し、個々が努力を重ね目標を達成する事ができた職員が多く見られました。今後も職員間の連携やコミュニケーションが今以上に高まるよう、色々な場面で話し合える環境作りに取り組みます。

③新型コロナウイルス等感染症の施設内感染防止に努めます。

コロナ禍より引き続き、ご本人・ご家族からの協力を頂きながら健康状態の把握や情報収集に努め、感染拡大防止に向けた体制維持に取り組んできました。

5類に移行となりましたが、感染症対策委員会を中心に備蓄品の確保や初動対応・感染防止対策の確立・関係者との情報共有(ご利用者・ご家族・職員が陽性となった場合は時系列にまとめ、感染者の情報等を確認)の他、基本的対策(マスク着用・手洗いなどの手指衛生・換気・「三つの密」の回避等)を継続して実施しました。



◎ 居宅介護支援事業所

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを可能な限り続けることができるように、地域の特性や実情に合わせた介護サービスを提供し、地域や社会資源との連携、多職種が協働で支える仕組みづくりを意識しながら支援を行いました。また、コロナ感染症が5類に移行後も、サービス事業所において施設内まん延によるサービス休止等の事態が発生しましたが、代替えサービスの調整を行ない、介護者の負担軽減や利用者の生活に与える影響の緩和に努めました。

(1) 居宅介護支援事業の利用件数と収入 (単位 件、千円、%)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5
利用件数	1,420	1,389	1,449	1,288	1,098
収 入	16,387	18,901	22,790	19,229	16,169
収入前年対比	80.4	115.3	120.5	84.4	84.1

(2) 目標達成への取り組み

○ 重点目標

① ACP (人生会議) について

当初から予定していた研修会が実施されなかったこともありますが、具体的なACPに関する活動を実施することができませんでした。しかし看取り期における、本人・家族に対する意思決定支援を医療や多職種との連携を図りながら本人の尊厳の保持に努めて参りました。今後も本人の視点に立ち、意思を尊重した支援を行なっていきたいと思えます。

② 事業所内での事例検討会を行い、実践力アップに努めます。

事業所内で、定期的に毎週伝達会議を行い、見出された課題の解決に向けた意見交換等、ケースを振り返る取り組みを行ってきました。更に、解決困難な事例については、地域ケア会議等に事例提供を行ない、多職種間での検討を行ってきました。

(3) 研修会への参加や交流会の開催について

① 研修会について

研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主任介護支援専門員更新研修 ・介護支援専門員(専門)更新研修 ・介護支援専門員実務研修実習指導者研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定調査員研修 ・難病患者支援者研修会 など
------	---	---

※オンライン形式での研修を中心に、各介護支援専門員が掲げた研修目標に添って研修に参加いたしました。

② 介護者交流会

4年ぶりの介護者交流会の開催となり、参加していただいた介護者の皆様からは「同じ思いを経験している人でしかわからない思いや気持ちを聞くことができ、介護の情報交換やヒントをもらうことができ本当に嬉しかった」等の感想をいただきました。多くの介護者は多少に関わらず閉塞感を感じながら介護に向き合われていることを改めて知ることができました。ケアマネジャーは本人・介護者の伴走者として、介護者が気負いなく不安や思い等を表出できる場づくりや、思いに寄り添った対応を常に意識していかなければならないと強く受け止めました。

8. 社会福祉団体との連携

(1) 共同募金会

共同募金会の組織には、中央募金会、新潟県共同募金会、市町村共同募金会があり、湯沢町共同募金委員会会長は湯沢町長が任命されています。

共同募金は、町民皆様の戸別募金と企業等からの法人募金や学校募金に大別されます。募金は全て新潟県共同募金会に送金したのち、一部を除き湯沢町に配分され地域の福祉に使われています。



◎ 募金実績

募 金 種 類	R4	R5
赤い羽根募金(戸別募金・法人等募金)	1,678,812 円	1,661,777 円
歳末助け合い募金	562,800 円	551,700 円

○ 湯沢町への配分金は、次のように使われています。

- ・身体障害者団体支援
- ・ボランティア団体支援
- ・老人クラブ事業支援
- ・歳末助け合い慰問事業
- ・長期入院入所者援助
- ・各種サロン事業

(2) 愛の協力運動

町内会のご協力により、本年度も更生保護法人新潟県保護観察協会の事業に賛同いただき方から愛の協力金として取りまとめをいただきました。

◎ 募金実績

募 金 種 類	R4	R5
愛の協力運動協力金	566,100 円	555,900 円

○ 愛の協力金は、次のように使われています。

- ・社会を明るくする運動支援
- ・保護司会の活動支援
- ・保護観察対象者支援
- ・更生保護施設への助成

9. 苦情相談、ヒヤリハット、介護用品等貸出等の状況

(1) 福祉サービスに関する苦情解決について

苦情相談の状況

	R1	R2	R3	R4	R5	内 容
苦情相談件数	2件	2件	1件	1件	1件	児童への対応

(2) ヒヤリハット等報告

通所介護事業所	件数	内 訳			備 考
		身 体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	23	6	9	8	
事 故	5	4	0	1	
車両事故	1	0	0	1	
合 計	29	10	9	10	

訪問介護事業所	件数	内 訳			備 考
		身 体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	7	1	0	6	訪問日時等
サービス内容	6	3	0	3	
その他	3	1	0	2	
車両事故	0	0	0	0	
合 計	16	5	0	11	

児童クラブ	件数	内 訳			備 考
		身 体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	1	1	0	0	
事 故	1	1	0	0	
その他	0	0	0	0	
合 計	2	2	0	0	

(3) 介護用品等貸出状況

貸出用品	車椅子	ポータブルトイレ	シャワー椅子	ストレッチャー	合計
件 数	34件	6件	1件	1件	42件

社会福祉法人 湯沢町社会福祉協議会
設立 50 周年記念 「祝う会」



令和5年11月13日